

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

| | | |
|-------------------------------|-----|----|
| I. 理念に基づく運営 | 項目数 | 7 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | 1 |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | 5 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | 7 |
| 合計 | | 20 |

| | | |
|---------------------|-----------------------|-----------|
| 訪問調査日 | 令和 7 年 1 月 9 日 (木) | |
| 調査実施の時間 | 午前 1:00 | ～ 午後 2:30 |
| 事業所名 (都道府県) | グループホーム桜森荘 (山梨県) | |
| 評価調査員の氏名 | 氏名 (作成者) | 竹内 洋一 |
| 事業所側対応者 | 職名 | 管理者 |
| | 氏名 | 小林美幸 |
| ヒアリングを行った職員数 (1)人 | | |

○項目番号について

外部評価は20項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[実践状況]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[次のステップに向けて期待したい内容]

事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、管理者と調査員で話し合い、その事実を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|----------|
| 事業所番号 | 1991200252 | | |
| 法人名 | 芙蓉建設株式会社 | | |
| 事業所名 | グループホーム桜森荘 | | |
| 所在地 | 山梨県富士吉田市旭1丁目10番3号 | | |
| 自己評価作成日 | 令和 6 年 12 月 11 日 | 評価結果市町村受理日 | 令和 年 月 日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|----------------|
| 評価機関名 | 山梨県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 甲府市北新1-2-12 |
| 訪問調査日 | 令和 7 年 1 月 9 日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高齢者の生活を支える事業者として、地域との共存を図りながら介護サービスを提供し、地域福祉の観点からも気軽に相談も出来るような運営をしていきたい。高齢者がマイペースで過ごされる中で、自らの意思に基づき自らの能力を最大限に活かして、自立した質の高い生活を送ることができるように支援したいと考える。
また、最期まで安心して生活できる場所として利用者・家族にとらえてもらえるよう、医師と薬剤師・看護師・介護員のチームワークで支えたい。
一人一人が考えて介護サービスが提供できるよう、職員の研修にも力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

災害時の利用者の避難誘導の際、一人ひとりの介助方法を分かりやすく表示しているので、誰でも同じ様に対応することが可能になっています。運営推進会議の取り組みが反映されています。意思確認の難しい利用者には、職員がテーマを設けて聞き取り、その反応から思いを把握する取り組みを行っています。外国人の技能実習生を数名抱えており、実習生にとって困難な業務を職員が補完して、実習生の育成に尽力しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|---|---|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている(参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている(参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム桜森荘

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(実践状況) | | 実践状況 | 外部評価 |
|-------------------|-----|--|---|---|---|--|
| | | | ユニット名(ふじざくら) | ユニット名(ふよう) | | |
| I 理念に基づく運営 | | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念、運営方針を事務所に掲示し職員の意思統一を図っています。桜森荘職員行動指針を定め周知徹底の為、毎日朝礼で確認。 | 理念、運営方針を事務所に掲示し職員の意思統一を図っています。桜森荘職員行動指針を定め周知徹底の為、毎日朝礼で確認。 | 運営理念である「本人の家族との思いを大切に、富士の麓に根差した、暮らしの継続を目指します」と3つの運営方針は、ホームページに掲載されています。また、理念および行動目標を事務所に掲示して、朝礼の際に管理者が復唱し、周知共有しています。 | 朝礼の際に、管理者が理念を復唱していますが、管理者だけでなく、全ての職員が輪番で復唱する機会を設けることで、更に理念への意識が高まるものと思います。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 西丸尾自治会第1班に加入。例年では自治会の行事等入居者、スタッフと共に参加(夏祭り・清掃活動等)していますが、清掃のみ参加。今後の感染状況と行事内容によっては地域の行事への参加も検討したい。また日曜日の食材等に関してはできるだけ近所店(魚等)を利用し、利用者と共に購入に行っている。 | 西丸尾自治会第1班に加入。例年では自治会の行事等入居者、スタッフと共に参加(夏祭り・清掃活動等)していますが、清掃のみ参加。今後の感染状況と行事内容によっては地域の行事への参加も検討したい。また日曜日の食材等に関してはできるだけ近所店(魚等)を利用している。 | コロナ禍以前は、神社の祭典において、子ども神輿の休憩所として事業所の敷地を開放した交流が行われていました。自治会が定期的に行う地域清掃では、職員と数人の利用者が事業所の道路沿いの清掃を担っています。自治会との関わりは、感染状況に左右されますが、参加を前提とした取り組みに期待しています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 例年コミュニティカフェを開放しているが、コロナウイルスの影響により来荘制限を行っている。認知症の相談は変わらず受け付けており相談、支援の方法等助言を行い、行政サービスにつながったケースもある。 | 例年コミュニティカフェを開放しているが、コロナウイルスの影響により来荘制限を行っている。来訪者には当該施設がどのような仕組みでなされているか、認知症の理解、相談、支援の方法等助言。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そでの意見をサービス向上に活かしている | 入居者代表、家族会代表、地域代表(自治会・民生委員・消防隊長)等の意見を取り上げ、消防団の方々による施設内見学・ホームページの内部ページを作成(ログイン画面の設定)。また、非常時の介助方法を居室上部にマークで貼り付けを行っている。 | 入居者代表、家族会代表、地域代表(自治会・民生委員・消防隊長)等の意見を取り上げ、消防団の方々による施設内見学・ホームページの内部ページを作成(ログイン画面の設定)。また、非常時の介助方法を居室上部にマークで貼り付けを行っている。 | 定期的に開催されている運営推進会議の議事は、ファイリングして職員間で周知されています。運営推進会議のメンバーである消防隊長の助言から、非常時ににおける利用者の介助方法を、誰でも分かるように居室に明示しており、会議の意見が運営に反映されています。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 当該施設の現状待機者、居室の満室状態等、地域の状況も変化している為、問い合わせのあった際等、随時、市の包括に伝達。運営推進会議ではこのような対応等で状態が回復している等の状況を伝えながら、協力関係を構築。 | 当該施設の現状待機者、居室の満室状態等、地域の状況も変化している為、問い合わせのあった際等、随時、市の包括に伝達。運営推進会議ではこのような対応等で状態が回復している等の状況を伝えながら、協力関係を構築。 | 市町村とは、運営推進会議や地域包括担当者との間で、随時、情報交換と情報共有が行われています。市には、災害時、特に富士山が噴火した際の避難方法について、原則としている徒歩での避難は困難であり、市からバスを運航していただけるよう要望しているとの話を管理者から伺いました。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の錠錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束禁止の対象となる具体的な行為については、職員間に正しく理解出来るよう研修を行い、玄関錠錠等、言葉の拘束に関してもお互い注視しながら拘束のないケアを実施。(内部研修済み) | 身体拘束禁止の対象となる具体的な行為については、職員間に正しく理解出来るよう研修を行い、玄関錠錠等、言葉の拘束に関してもお互い注視しながら拘束のないケアを実施。(内部研修済み) | 身体拘束をしない為の研修は、受動的な研修だけでなく、外国人の職員の研修報告に対して、全体でディスカッションする等の能動的な研修が行われています。研修を通して、不適切なケアである「座っててください」という言葉がけが少なくなったとの話を伺いました。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 身体拘束・虐待防止委員会のリーダーを中心に3か月にわたり、職員全体会議で高齢者虐待防止研修として行った。事業所内での虐待が見逃ごされることがないように、不適切ケアが少なくなるよう努めている。 | 身体拘束・虐待防止委員会のリーダーを中心に4か月にわたり、職員全体会議で高齢者虐待防止研修として行った。事業所内での虐待が見逃ごされることがないように、不適切ケアが少なくなるよう努めている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している | 日常生活支援事業や成年後見制度については、メディアを使用し自由に研修できるよう導入。その中の研修項目(必須項目ではない)となっている。現在、権利擁護を高めるための取り組みを行っている。過去に1名、包括・社協との連携の下、最期を迎えた時の対応について、樹木葬の場所見学・永代供養等、本人を含めて話し合い対応。 | 日常生活支援事業や成年後見制度については、メディアを使用し自由に研修できるよう導入。その中の研修項目(必須項目ではない)となっている。現在、権利擁護を高めるための取り組みを行っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の締結、解約、改定の際には、時間をかけて説明し分からない部分、疑問点を、理解・納得できるまで時間をかけて実施している(その場では理解しても、あとで再度問い合わせがあれば説明を行う)。 | 契約の締結、解約、改定の際には、時間をかけて説明し分からない部分、疑問点を、理解・納得できるまで時間をかけて実施している(その場では理解しても、あとで再度問い合わせがあれば説明を行う)。 | | |

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム桜森荘

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(実践状況) | | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|--|---|-------------------|
| | | | ユニット名(ふじざくら) | ユニット名(ふよう) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見、要望等取り入れ運営に反映できるよう、ご意見箱や気づき箱を玄関ホールに設置。 | 意見、要望等取り入れ運営に反映できるよう、ご意見箱や気づき箱を玄関ホールに設置。 | 意見箱と気づき箱が設置されています。意見箱は家族の意見の収集として、気づき箱は職員の意見の収集としていますが、口頭でのやり取りが日常となっている為、活用されていないとのことです。家族の意見の中で、事業所のイベントに参加したいとの希望が上がっていたことから、今後、外出イベントへの協力を働きかけたいとの意向です。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員全体会議(月1回)の場、またはその都度職員の意見や提案を聞いて反映。またユニットリーダーに意見・提案が行くこともある。 | 職員全体会議(月1回)の場、またはその都度職員の意見や提案を聞いて反映。またユニットリーダーに意見・提案が行くこともある。 | 職員との面談は、運営会社の部長と管理者が一緒に対応しています。月1回の会議の場で、職員からの意見を聴き取り、運営に反映しています。働き方の要望では、運転のできない職員の為の通勤方法について、勤務形態を配慮する中で働き続ける方法が提示されています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 管理者や職員個々の実績、勤務状況を把握し各自が向上心を持って働けるように職場環境・条件等に努めている。 | 管理者や職員個々の実績、勤務状況を把握し各自が向上心を持って働けるように職場環境・条件等に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 管理者や職員1人1人のケア能力と力量を把握し、研修を受ける機会の確保を進めている(介護福祉士等)。施設内では月に1回研修の機会を設けている。他にメディアを使用しての研修も行っている。 | 管理者や職員1人1人のケア能力と力量を把握し、研修を受ける機会の確保を進めている(介護福祉士等)。施設内では月に1回研修の機会を設けている。他にメディアを使用しての研修も行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 以前は同業者との交流はあったが現在はなし。今年グループホーム協会に入ったので、今後、取り組んでいきたいと考えている。 | 以前は同業者との交流はあったが現在はなし。今年グループホーム協会に入ったので、今後、取り組んでいきたいと考えている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 認知症などで同じ話を繰り返すが、その都度対応し、不安、要望等耳を傾け、本人の安心を確保するため関係づくりを実施。24時間シートや自分史などを活用して把握し、改善方法の検討、支援を実施 | 認知症などで同じ話を繰り返すが、その都度対応し、不安、要望等耳を傾け、本人の安心を確保するため関係づくりを実施。24時間シートや自分史などを活用して把握し、改善方法の検討、支援を実施 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居申請に来られてから入居までの間に、桜森荘の方に認知症の対応の相談に来られる方もいた。どういった関わりをしていくべきかなど認知症の方との関わり方のアドバイスを送り対応しました。その方は入居となり現在もサービスを受けられている。 | 帰宅願望があり、落ち着きがなくなったり、妄想も激しくご家族も自宅でも目が離せない状態で、こちらにもいろいろそのことで迷惑をかけることもあると。興奮しない環境づくりや家族とも連携して(電話を自由にして安心して頂く等)関係づくりを実施。また利用者同士トラブルがあることもあるが、相性などを考慮して席を決めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入院・パーキンソン発病による状態の変化に伴い、入居時または退院時に福祉用具の提供、生活の中でリハビリができるよう計画を見直しサービスの対応を実施。 | 前施設では、リハビリ・パットを使用。腹部を気にされる事も頻繁にあったが、失禁もなく総合的な快適さ等で判断し、布パンツを使用。それ以降も失禁はほぼ見られず、腹部を気にされる事もなくなった。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 洗濯もの干し・食器ふき等家事を共に行ってくれる方もいれば、他者のお世話をしてくれる方もいる。また、裁縫や草取り、などご利用者様が出来ることを職員の目の届く範囲で自由にして頂き、職員も助かっている。 | 洗濯もの干し・食器ふき・掃除等家事を共に行ってくれる方もいれば、他者のお世話をしてくれる方もいる。また、裁縫や草取り、ゴミ出しなどご利用者様が出来ることを職員の目の届く範囲で自由にして頂き、職員も助かっている。 | | |

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム桜森荘

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(実践状況) | | 外部評価 | |
|------------------------------|------|--|--|---|---|-------------------|
| | | | ユニット名(ふじざくら) | ユニット名(ふよう) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族の面会だけでなく、希望があれば本人から電話もして頂いている。ADLの低下・栄養状態の悪化している方に、午前のお茶の際にプロテインを飲むことを理解していただき、食事、栄養摂取への契機になる働きかけを行い、しっかり食べられるようになった。看取りの方に対しては、ご本人の希望を聞き、家族に支えになって頂き、可能な限りご本人との時間を大切に過ごしていただいた。 | 栄養状態の悪化している方に、午前のお茶の際にプロテインを飲むことを理解していただき、食事、栄養摂取への契機になる働きかけを行い、しっかり食べられるようになった。看取りの方に対しては、可能な限りご本人とご家族の時間を大切に過ごしていただいた。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 感染状況の動向を見ながら中に入っていた対面での面会を行っている。現在は、コロナの感染状況の拡大からビニールカーテン越しの面会を行っている。人と人との関係が途切れないよう支援をしている。また、携帯電話を持っていない方も、自由に事務室で電話を使って頂いている。 | 家族・友人と面会あり。現在はコロナの感染状況の拡大からビニールカーテン越しの面会を行っており、人と人との関係が途切れないよう支援をしている。馴染みの人や子供たちとの手紙のやり取りはしている人もいる。 | 事業所の開設時から、友人が訪ねてきてくれたり、ドライブに出かけた際は、生まれた場所の神社を見に行ったり、馴染みの人や場所との繋がりを大切にされた支援が行われています。過去には、地域の行きつけの美容室を利用していましたが、送迎が困難な状況から、ほとんどの利用者は訪問による理美容を活用しています。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 比較的優しく穏やかな方が多く、トイレ誘導までしようとするため、都度職員が気にしながら、対応している。支えあう気持ちは大切にしたい。 | 他者に世話をやく方もいる。寂しくて眠れないと話される利用者様にも、一緒に寝ようと気遣ってくれる方もいる。都度職員が気にしながら、対応している。支えあう気持ちは大切にしたい。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 4年前にお亡くなりになった方のご家族が、オムツを包むための新聞紙を持ってきてくれる。また、家族から別の方の介護の相談もあった。今後もサービスが終了しても必要に応じ相談にのれるよう、努めている。 | 以前は、頻繁な医療が必要な状況となり利用が終了し、入院先や家族から退院先について相談にのった事がある。新会社になってからは、利用が終了して間もないので、グループケアを行っている段階である。 | | |
| III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常的に会話をする機会も多く、本人の要望、意向がよく聞ける状態であるため把握している。医師からの勧めと本人の要望が異なることもあり、その際には何度か話をし、すり合わせを行った。 | 日常的に会話をする機会が多く、本人の要望、意向がよく聞ける状態であるため把握している。一人困難な方はいるが、これまで7年近くの付きあひの中で、ある程度は会話で把握できている | 意向確認の困難な利用者やコミュニケーションの難しい利用者に対しては、職員の間でテーマを設けて働きかけ、思いを把握する取り組みを行っています。嚥下に関して、利用者本人の希望と医師の評価に差異があった際は、ご本人の思いと家族の意向を優先し、同意を得たうえで本人の望むサービスを提供しています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 生活歴、今までの生活習慣、環境等、ご本人または家族より、自分史を記入して把握。それ以降も、話の中で聞き取った内容を、職員間で共有している。 | 生活歴、今までの生活習慣、環境等、自分で応えられる方に関しては本人より、応えられない方には、家族に依頼し自分史をお願いして把握。入居後も家族に以前の生活スタイルについて再度聞くようなこともある。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 体調の変化の激しい方にも、出来る限りタイムリーに対応できる様、状態把握している。状況に応じてはオンコール対応している。また、以前は寝たきりで食事も全介助の方も、状態を見ながら介助量を調節し、今ではほぼ自力で摂取できるまでになっている。 | 日々の過ごし方、近々の心身状態、有する力等状態の経過を見ながら、また職員間で情報共有しながら、現状把握とこれからどうしたらいいか考えて対応している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | より良く暮らすための課題、ケアのあり方について本人、家族、関係者と話し合い(職員全体会議も含める)、意見、アイデアを反映して、現状に即した計画づくりを実践。また、薬剤師がよく介入してくれ、減薬できた方もいる。 | より良く暮らすための課題、ケアのあり方について本人、家族、関係者と話し合い(職員全体会議も含める)、意見、アイデアを反映して、現状に即した計画づくりを実践。また、薬剤師がよく介入してくれ、減薬できた方もいる。 | 利用者の介護計画は、利用者担当と介護支援専門員が中心になって、家族や関係者との話し合いを経て作成しています。介護計画は、薬剤師の他に、主治医や歯科医師、訪問リハビリマッサージの方が関わり作成されています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の生活、ケアの内容、気づき等個別にシステム情報に記録、日報に申し送りをして記入し、職員間で情報を共有、実践の様子を担当者が経過記録を残すようにしている、計画の見直しに活かせるようにしている。情報の共有のため、継続が必要な申し送り表を、ユニットごとに作成し、徹底を呼びかけている。 | 日々の生活、ケアの内容、気づき等個別にシステム情報に記録、日報に申し送りをして記入し、職員間で情報を共有、実践の様子を担当者が経過記録を残すようにしている、計画の見直しに活かせるようにしている。情報の共有のため、継続が必要な申し送り表を、ユニットごとに作成し、徹底を呼びかけている。 | | |

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム桜森荘**

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(実践状況) | | 外部評価 | |
|---------------------------|------|--|---|---|---|--|
| | | | ユニット名(ふじざくら) | ユニット名(ふよう) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | パーキンソン病で発声をはっきりしない方の、相続の話・預貯金の話し合いに金融機関や相続財センターで立ち合い、家族と共に意思の確認と保管場所など確認できた。 | 現在はまだ既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。ただし、預り金が多額な場合、本社預かりとして、そこからの引き出しを行っている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域資源はあるが、特別、資源の活用まで結びついてはいない。但し、友人の面会により、心の支えになってもらったことはある。今後、地域と関わらせていただき、入居者ご本人の心身の力を発揮できるよう支援していく。 | 地域資源はあるが、特別、資源の活用まで結びついてはいない。敬老の日に寄せて地域の子供たちから手紙を頂き、その返事を利用者が書いたことはある。今後、より地域と関わらせていただき、入居者ご本人の心身の力を発揮できるよう支援していく。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | これまでのかかりつけ医のまま継続の方もいる。看取り対応の方は往診時に必要に応じ家族立ち合いや話し合いの場を持つようにしている。状態に応じ、協力医療機関や外部の主治医との連携も、柔軟に対応している。 | これまでのかかりつけ医のまま継続の方もいる。看取り対応の方は往診医に変更して頂き、往診時に必要に応じ家族立ち合いや話し合いの場を持つようにしている。状態に応じ、協力医療機関や外部の主治医との連携も、柔軟に対応している。 | 入居時に医療受診についての説明が行われています。そのまま主治医を継続される場合と、施設の契約医療機関に変更される場合があり、ご本人や家族の希望が優先されています。家族によるかかりつけ医への受診の際は、必要に応じて職員が同行しています。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師が常勤であるため、職場内で相談・報告は適時適切に行われ対応出来ている。 | 看護師が常勤であるため、職場内で相談・報告は適時適切に行われ対応出来ている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院しても支援連携室(市立、日赤、回生堂・三生会病院等)と早期に退院できるように施設側の体制を整え情報交換、相談に努めている。連携室とも日頃から情報共有。 | 入院しても支援連携室(市立、日赤、回生堂・三生会病院等)と早期に退院できるように施設側の体制を整え情報交換、相談に努めている。連携室とも日頃から情報共有。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化や終末期のあり方について入居時に説明。実際に看取りの状態にある方にも、早い段階から本人・家族と話し合い、場合により医師とも情報共有・話し合いの場を設け、当該施設で出来る内容を理解しあい、チームで支援に取り組めるよう職員に急変時の対応方法を申し合わせている。 | 重度化や終末期のあり方について入居時に説明。実際に看取りの状態にある方にも、早い段階から本人・家族と話し合い、場合により医師とも情報共有・話し合いの場を設け、当該施設で出来る内容を理解しあい、チームで支援に取り組めるよう職員に急変時の対応方法を申し合わせている。 | 入居時に、終末期のあり方について説明していますが、家族によっては「今、決めておかなければならないのか」と質問される家族があることから、終末期に近くなった際、具体的な対応を医師と施設側から説明して、文書で申し合わせています。利用者が急変された場合の対応は、マニュアル化し、研修を行っています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 応急処置、初期対応の定期訓練は実施していない。初回研修に研修を行い、救急対応・感染症対応については実技の研修を年1回程度。体調不良者がいる場合には、看護師が退勤する前には夜勤者、他職員に対応を連絡、オンコール対応を実施。 | 応急処置、初期対応の定期訓練は実施していない。初回研修に研修を行い、救急対応・感染症対応については実技の研修を年1回程度。体調不良者がいる場合には、看護師が退勤する前には夜勤者、他職員に対応を連絡、オンコール対応を実施。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難手順、避難ルート確立されており、地域(近所)の消防団に施設見学をしてもらい、施設の構造、設備、入居者の部屋割りなど把握して頂いた。運営推進会議の場で、有事の協働について話し合いもされた。(今年になってからは避難訓練を3回実施)。 | 避難手順、避難ルート確立されており、地域(近所)の消防団に施設見学をしてもらい、施設の構造、設備、入居者の部屋割りなど把握して頂いた。運営推進会議の場で、有事の協働について話し合いもされた。(今年になってからは避難訓練を3回実施)。 | 事業所の立地地域はハザードマップの対象外です。しかし、富士山が噴火した際の火山灰被害が想定されています。年に3回、火災や地震の想定訓練と、通報・初期消火訓練を実施しています。災害時、地域の一人暮らしの高齢者の避難所として受け入れる体制がとられています。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 人格を尊重し、プライドやプライバシーを損ねない言葉かけ対応が継続的に出来るよう内部研修をしこく行っている。不適切ケアを少しでも減らすために、皆に考えてもらうような内容にし、3か月にわたり研修を実施 | 人格を尊重し、プライドやプライバシーを損ねない言葉かけ対応が継続的に出来るよう内部研修をしこく行っている。不適切ケアを少しでも減らすために、皆に考えてもらうような内容にし、3か月にわたり研修を実施 | プライバシーについての対応を具体的に示したマニュアルはありませんが、プライバシーに関する研修は、①動画による研修②施設内での不適切ケアを具体的に取上げて話し合いを行っています。利用者の1/3は必ず同性介護で行う様になっています。 | プライバシーについて、不適切ケアの具体的な内容を明確にし、適切な対応をマニュアルとして明文化することで、より意識的な働きかけができるように思っています。 |

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム桜森荘

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(実践状況) | | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|--|---|
| | | | ユニット名(ふじざくら) | ユニット名(ふよう) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 今日着たい衣服など選定して頂いたり、機会は少ないがおやつを代表で買いに行っていたりしている。思いや希望を表出できない人はいない。 | 今日着たい衣服など選定して頂いたり、機会は少ないがおやつを代表で買いに行っていたりしている。思いや希望を表出できない人はいない。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 個々の生活習慣の違いに即した生活を提供している(共同生活スペースの消灯時間は21時であるが、居室内は自由にテレビを見たり起きてもらっている)。 | 個々の生活習慣の違いに即した生活を提供している(共同生活スペースの消灯時間は21時であるが、居室内は自由にテレビを見たり起きてもらっている)。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 頭髪等身だしなみを大切に。その方なりのおしゃれができるように支援している。 | 頭髪等身だしなみを大切に。化粧をする方もいる。その方なりのおしゃれができるように支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 盛り付け、配膳、食器拭きのお手伝い等職員と一緒に出来る方は実施して頂いている(生活の継続)。食事の際、検食を兼ねて職員と一緒に摂っている。 | 盛り付け、配膳、食器拭きのお手伝い等職員と一緒に出来る方は実施して頂いている(生活の継続)。楽しい食事ができるように一部嫌いなものに対しては代替品を提供。食事の際、検食を兼ねて職員と一緒に摂っている。 | 食事は業者からの委託ですが、日曜日の昼は地域の店へ買い出しに行き、手作りの食事を提供しています。手作りで利用による。調理への参加の場面が見られています。職員が検食として一緒に食することで、味や硬さ等が共有されています。 | 地域密着を掲げる事業所として、地域の資源を活用するための試みを、食の場を通してより頻度を増していけることを期待します。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態やカ、習慣に応じた支援をしている | 食事量、水分量を記録。1日を通して確保できるよう支援。夏場はポカリを起きたら提供。状態に応じジュレ(水分摂取用ゼリー)を召し上がる方もいれば、コーヒを飲んでいただいている。こまめな水分摂取を心がけ、場合によっては夜間も摂取して頂くこともある。 | 食事量、水分量を記録。1日を通して確保できるよう支援。夏場はポカリを起きたら提供。状態に応じジュレ(水分摂取用ゼリー)を召し上がる方もいれば、コーヒを飲んでいただいている。9人のうち一人は日中水分摂取が少なく夜間心臓発作を起こしやすい為、トイレに起きる度にポカリを50mlずつ提供。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 舌汚れ、口臭生じないように、起床後、毎食後に1人1人の状態に応じた口腔ケア実施。歯磨き粉種類、歯ブラシ、ポリドント等。 | 舌汚れ、口臭生じないように、起床後、毎食後に1人1人の状態に応じた口腔ケア実施。歯磨き粉種類、歯ブラシ、ポリドント、口腔ガゼ等。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 9人中2人は自立。1人1人の排泄時間、習慣を把握して声掛け、トイレでの排泄、失禁を低減し、自立に向けた支援を実践。またねたきりでオムツを使っていた方も、現在ではリハビリパンツを使用している。 | 9人中1人は自立。1人1人の排泄時間、習慣を把握してトイレでの排泄、失禁を低減し、自立に向けた支援を実践。中にはリハビリパンツの使用を終了し、布パンツで過ごされている方もいる。 | 排泄の自立に向けて、入居後原則1週間記入する24時間シートを基に、本人の思いを受け止める中で排泄パターンを把握しています。寝たきり状態の方でも移乗の際に、足に加重をかける練習をして、トイレでの排泄に繋がったケースを伺いました。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 体操など軽い運動はしてはいるものの十分ではないが、水分摂取の声掛け、整腸剤内服等、個々に応じて予防に取り組んでいる。かなりの便秘だった利用者様は、下剤の量・種類が少なくなり、持参した洗腸は一度も使用せず過ごされている。 | 体操など軽い運動はしてはいるものの十分ではないが、水分摂取の声掛け、整腸剤内服等、個々に応じて予防に取り組んでいる。便秘でお腹の張りをかなり訴えていた人は入居後3か月程度で排便コントロールが出来、不穏も落ち着いている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 曜日は確定しているが、入浴したくない日等は、他入居者に話して入浴日を交替して頂いている。また日曜日は予備日として希望があれば入浴。出来る限り同性介護とし、介助している。毎日でも入浴したい方の希望には沿っていない。 | 曜日は確定しているが、入浴したくない日等は、他入居者に話して入浴日を交替して頂いている。また日曜日は予備日として希望があれば入浴。出来る限り同性介護とし、介助している。毎日でも入浴したい方の希望には沿っていない。 | 入浴は、利用者の意向に沿ってその都度対応されています。入浴時の同性介護について、以前は同性でない嫌がっていた利用者が施設に慣れることで、異性の介護に適應できている場合や、長年暮らしていても異性を拒む利用者もいることを伺いました。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 前夜あまり眠れなかった、遅くまで起きていた等時々の状態に応じて朝寝、昼寝など短時間休息を提供。食事を少し遅めにとっていただくこともある。また夜間のどの湯き等水分を提供。 | 前夜あまり眠れなかった、遅くまで起きていた等時々の状態に応じて朝寝、昼寝など短時間休息を提供。また夜間のどの湯き等水分を提供。寂しがりの方で、寝る時にそばにいてほしい要望があるときには手を握り、時に添い寝など援助することもある。 | | |

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム桜森荘

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(実践状況) | | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|--|-------------------|
| | | | ユニット名(ふじざくら) | ユニット名(ふよう) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | ユニット単位で内服一覧表あり。薬の目的、副作用等理解できるよう、いつでも注意書きを見れるようにしている。症状の変化の確認も特に注意しなければいけない方には申し送りを行っている。一時薬が処方されたときにも付箋を張り、一目瞭然の状態にしてある。薬剤師の訪問もあり、医師への助言や副作用の早期発見などにも寄与している。 | ユニット単位で内服一覧表あり。薬の目的、副作用等理解できるよう、いつでも注意書きを見れるようにしている。症状の変化の確認も特に注意しなければいけない方には申し送りを行っている。一時薬が処方されたときにも付箋を張り、一目瞭然の状態にしてある。薬剤師の訪問もあり、医師への助言や副作用の早期発見などにも寄与している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 張り合い(仕事の提供:食器ふき、洗濯物たため等)や喜び(嗜好品提供等)のある日々を過ごせるように役割、気分転換(周囲散歩、軽い体操等)を実施。脳トレを多く活用。2ヶ月に1回以上イベントを実施(ドライブなど外出イベントも)。 | 張り合い(仕事の提供:食器ふき、洗濯物たため、そうじ・ゴミ捨て等)や喜び(嗜好品提供等)のある日々を過ごせるように役割、気分転換(周囲散歩、軽い体操等)を実施。脳トレを多く活用。2ヶ月に1回以上イベントを実施(ドライブなど外出イベントも)。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 外出行事は、何度か行っている。近くへの散歩・ドライブ・外気浴・日光浴も行って庭や表に出る機会は作っても利用者の希望(家に帰る、外食をするなど)に沿ったものではない。外食する際は、家族にお願いしている。 | 外出行事は、何度か行っている。近くへの散歩・ドライブ・外気浴・日光浴も行って庭や表に出る機会は作っても利用者の希望(家に帰る、外食をするなど)に沿ったものではない。帰宅・外食する際は、家族に協力をお願いしている。 | 職員体制から、事業所周辺の散歩は難しく、事業所の庭や駐車場に出て日光浴をしています。また、職員数に応じて、1回に2~4人程度で出かける機会を設けています。職員の人員確保のため、職員体制の構築やボランティアの活用を推進して、外出の機会を設けていきたいとの話を伺いました。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現在自らお金を持ち使う入居者はいません。但し、イベントや希望時にはお金を使えるよう対応している。 | 全入居者ではないが、一部入居者には、バックや現金を家族と相談して自己責任で持って頂いている方もいる。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族に電話をかけたいと要望される方に関しては、事前に家族の許可を頂いておき電話をしたりしている。携帯電話を持っている方もいる。 | 家族に電話をかけたいと要望される方は自由に電話している。携帯電話を持っている方もいる。敬老の日の手紙に返事の手紙を書いた方もいる。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 周囲の事業所に比べ居心地の良い共用空間を建物自体を設計。天窓で自然の光を取り入れたり、自然な風を取り込んでいる。庭スペースでの日光浴等天候が良い日に随時実施。 | 周囲の事業所に比べ居心地の良い共用空間を建物自体を設計。天窓で自然の光を取り入れたり、自然な風を取り込んでいる。庭スペースでの日光浴等天候が良い日に随時実施。庭の草取り・ヨモギ摘みをしに外へ出る方もいる。 | 共有空間では、利用者間の人間関係を考慮して、一人ひとりの居場所が決められています。利用者の不穏対応では、周囲の利用者へ配慮をしつつ、落ち着いた対応方法を職員間で共有し、支援しています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い通りに過ごせるような居場所の工夫をしている | コミュニティカフェの活用。最近ではコミュニティカフェに行かれご自身が観たいテレビを観ながら、くつろがれている方もいる。 | コミュニティカフェで職員が昼食を食べていると話をしに来る方もいる。気の合う入居者同士と共同フロアで演歌を聞いたり歌ったりしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 今まで使用していた物品、飾りなどを持ち込んでもらえるように工夫。(テレビ・ラジオ、草苺・鏡台などの家具、アルバム等)。 | 今まで使用していた物品、飾りなどを持ち込んでもらえるように工夫。(テレビ、草苺・鏡台などの家具、アルバム等)。 | これまでの生活の継続として、利用者によってはベットではなく、畳の上に布団を敷く生活場面が提供されています。利用者が心地よく過ごすために、居室の配慮と並行して、働く場面として家事全般を手伝ってもらうことで、穏やかな生活が送れるよう取り組んでいます。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫をしている | 安全かつできるだけ自立した生活が営まれるように工夫をしている。 | 安全かつできるだけ自立した生活が営まれるように工夫をしている。 | | |